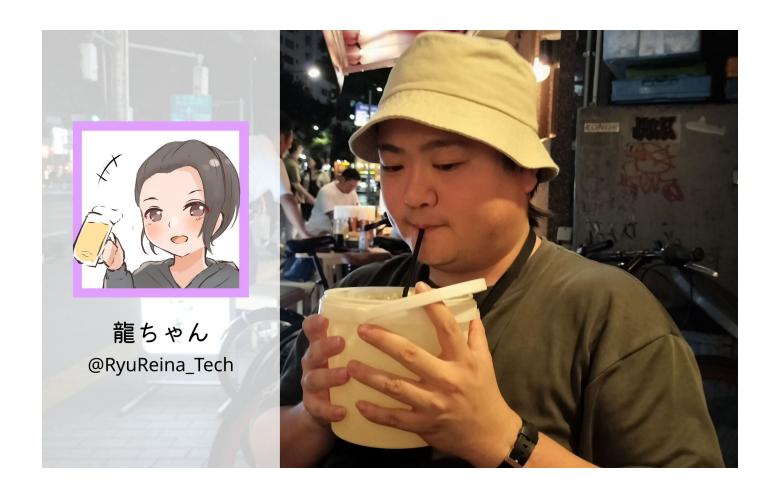
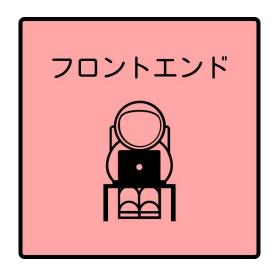
## Reactの開発環境をdevcontainerで作る!

## アジェンダ

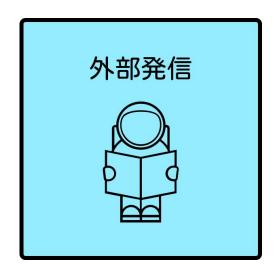
- ご挨拶
- 前提条件
- 使用するdocker-compose コマンドの確認
- 開発環境構築
- まとめ



#### 3年目のピヨピヨエンジニア







今日の目標

## Reactの環境をdevcontainerで作成する

# 前提条件

#### 前提条件

- 開発環境がVS Codeの人である\*
- docker composeが使用しているPCで実行できる
- フロントエンド
  - Viteを使った環境構築
  - npmかyarnで詰まったことがあればなおよい
- 萎えない心

## 使用するコマンド確認

#### 使用するコマンドの確認

docker compose build

サービスの構築

docker compose run

一度限りのコマンド実行

docker compose up

コンテナの作成と開始

## 開発環境構築

#### 開発環境構築:全体の流れ

- 作成する環境の整理
- 環境作成
  - Reactプロジェクトの作成
  - 効率的なプロジェクトに改変
  - devcontainer cup
  - デバック機能の追加

## 作成する環境の整理:要件整理

Nodeバージョン	20.10.0
パッケージ管理ツール	npm
ビルドツール	Vite
プロジェクトタイプ	React+Typescript

#### 作成する環境の整理:目指すディレクトリ構造

#### 作成する環境の整理:環境構築の流れ

- 1. Reactプロジェクトの作成
- 2. 改善①: Volume Trickを使用してnode modulesをコンテナ内に収める
- 3. <u>改善②:Docker build時のキャッシュを活用</u>
- 4. 一旦起動確認
- 5. <u>devcontainerでコンテナを起動する</u>
- 6. VS Codeでデバッグできる環境を整備する

### 作成する環境の整理:環境構築の流れ



ソースコード見にくいので、GitHubに上げています

### 全体の流れ

- 1. Reactプロジェクトの作成
- 2. 改善①:Volume Trickを使用してnode\_modulesをコンテナ内に収める
- 3. 改善②:Docker build時のキャッシュを活用
- 4. 一旦起動確認
- 5. devcontainerでコンテナを起動する
- 6. VS Codeでデバッグできる環境を整備する

- フロントプロジェクト作成用の一時的なNodeコンテナ作成
- Viteを使用してReactプロジェクトを作成する

まずは以下のディレクトリ構造を作成しましょう

#### Dockerfile

```
ARG NODE_VER

FROM node:${NODE_VER}

RUN npm update -g npm

WORKDIR /home/node/app

USER node
```

#### .dockerignore

```
*/dist
```

\*/node\_modules

```
dockerfile: ./.devcontainer/Dockerfile
```

#### docker-compose.yml

- 1. Dockerfileを指定
- 2. NODE\_VERを指定
- 3. ルートディレクトリをバインドマウント

ファイルを作成したら以下のコマンドを実行

docker compose build

docker compose run --rm react npm create vite

#### Viteのプロジェクトは以下の構成

ディレクトリ名	frontend
プロジェクトタイプ	React
JS or TS	Typescript

上記のディレクトリ構造になっていれば成功ですっ~

frontend/package.jsonのファイルを変更

```
"scripts": {
   "dev": "vite --host"
},
```

## 全体の流れ

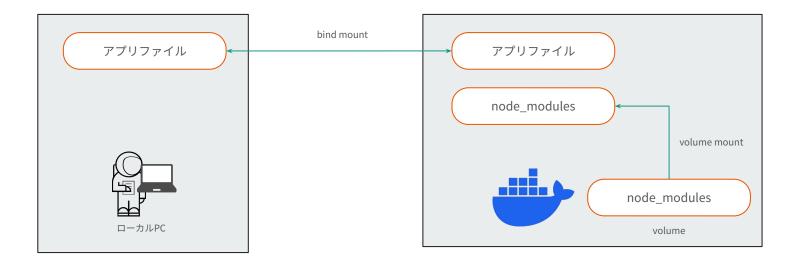
- 1. Reactプロジェクトの作成
- 2. 改善①:Volume Trickを使用してnode\_modulesをコンテナ内に収める
- 3. 改善②:Docker build時のキャッシュを活用
- 4. 一旦起動確認
- 5. devcontainerでコンテナを起動する
- 6. VS Codeでデバッグできる環境を整備する

改善①:Volume Trickを使用してコンテナ内に収める

- Volume Trickを理解する(Volumeマウント)
- node\_modulesをvolumeマウントでコンテナ内に収める

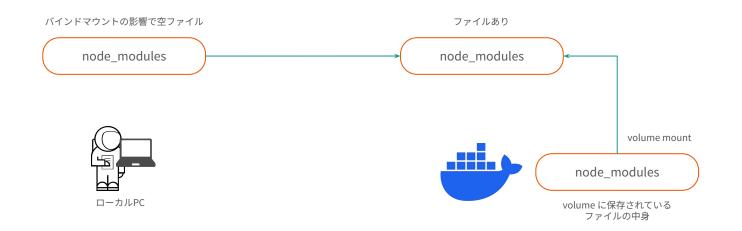
#### 改善①: Volume Trickを使用してコンテナ内に収める

Volume Trickとは?→Volume mountでコンテナ内に情報を収める



#### 改善①: Volume Trickを使用してコンテナ内に収める

Volume Trickとは?:今回の例



#### 改善①:Volume Trickを使用してコンテナ内に収める

#### Dockerfileを変更

```
ARG NODE_VER

FROM node:${NODE_VER}

RUN npm update -g npm

WORKDIR /home/node/app

RUN chown node:node .

RUN mkdir node_modules && chown node:node node_modules

USER node
```

- 1. コンテナ内でnode\_modulesを作成
- 2. 作業ディレクトリの権限をnodeユーザ にする

#### 改善①:Volume Trickを使用してコンテナ内に収める

#### docker-compose.ymlを変更

- 1. バインドマウントで./frontendをマウントする
- 2. Volume Trick
  - a. node\_modulesボリュームを作成する
  - b. ボリュームマウントで、コンテナ内のnode\_modulesとボリュームをマウントする

```
dockerfile: ./.devcontainer/Dockerfile
                                                            バインドマウント
 target: /home/node/app
  target: /home/node/app/node_modules
                                                              volume trick
```

### 全体の流れ

- 1. Reactプロジェクトの作成
- 2. 改善①:Volume Trickを使用してnode\_modulesをコンテナ内に収める
- 3. 改善②:Docker build時のキャッシュを活用
- 4. 一旦起動確認
- 5. devcontainerでコンテナを起動する
- 6. VS Codeでデバッグできる環境を整備する

- レイヤーキャッシュの特性を理解する
- レイヤーキャッシュを活用して適切に分割する

```
どっちも動くよ
COPY --chown=node:node ./frontend ./
RUN npm install
CMD ["npm", "run", "dev"
                        どっちが良いでしょうか?
COPY --chown=node:node
                                                           k.json ./
RUN npm install
COPY --chown=node:node ./frontend ./
```

FROM golang:1.20-alpine	
WORKDIR /src	
COPY	
RUN go mod download	
RUN go build -o /bin/server ./cmd/client	
RUN go build -o /bin/server ./cmd/server	
ENTRYPOINT [ "/bin/server" ]	

上から順に実行されて行く

一行ごと(レイヤ)にキャッシュ

ビルド時にキャッシュがあれば使用される

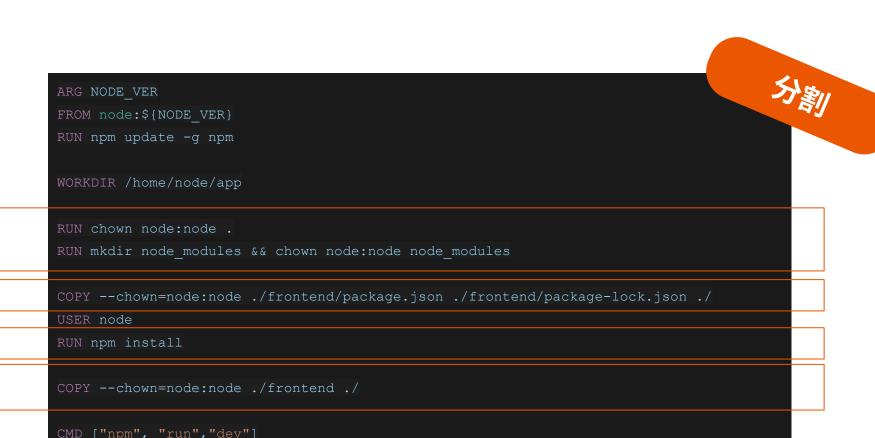
つまり....

分割できるところは分割や!

参考:docker レイヤードキュメント(<u>https://docs.docker.jp/build/guide/layers.html</u>)

#### Dockerfileを変更

- 1. 依存パッケージインストールに必要なファイルをコピー
- 2. 依存パッケージのインストール
- 3. フロントエンドプロジェクトファイルをコピー
- 4. 開発環境モードでビルド



```
ARG NODE VER
FROM node:${NODE VER}
RUN npm update -g npm
WORKDIR /home/node/app
RUN chown node: node .
RUN mkdir node modules && chown node:node node modules
COPY --chown=node:node ./frontend/package.json ./frontend/package-lock.json ./
USER node
RUN npm install
COPY --chown=node:node ./frontend ./
```

## 全体の流れ

- 1. Reactプロジェクトの作成
- 2. 改善①: Volume Trickを使用してnode\_modulesをコンテナ内に収める
- 3. 改善②:Docker build時のキャッシュを活用
- 4. 一旦起動確認
- 5. devcontainerでコンテナを起動する
- 6. VS Codeでデバッグできる環境を整備する

## 起動確認

- Dockerfileとdocker-compose.ymlの確認
- ここまで上手くいっているかのチェックです!

```
RUN npm update -g npm
RUN chown node: node .
USER node
RUN npm install
```

```
ARG NODE_VER

FROM node:${NODE_VER}

RUN npm update -g npm

WORKDIR /home/node/app

RUN chown node:node .

RUN mkdir node_modules && chown node:node node_modules

COPY --chown=node:node ./frontend/package.json./frontend/package-lock.json./

USER node

RUN npm install

COPY --chown=node:node ./frontend ./
```

docker-compose.yml

.devcontainer/Dockerfile

## 起動確認

```
docker compose build
docker compose run --rm react
```

```
VITE v5.2.7 ready in 165 ms

→ Local: http://localhost:5173/
→ Network: http://
→ press h + enter to show help
```

アクセスはできなくてOK

左の画面でLocalとNetwork両方でれば

できてるでしょう!

## 全体の流れ

- 1. Reactプロジェクトの作成
- 2. 改善①: Volume Trickを使用してnode\_modulesをコンテナ内に収める
- 3. 改善②:Docker build時のキャッシュを活用
- 4. 一旦起動確認
- 5. devcontainerでコンテナを起動する
- 6. VS Codeでデバッグできる環境を整備する

VS Codeの拡張機能が必要です。



参考: Dev Containers (vscode:extension/ms-vscode-remote.remote-containers)

以下のファイルが必要です

```
.
├── .devcontainer
├── Dockerfile
├── devcontainer.json ←こちらのファイルがあれば起動
├── .dockerignore できます!
├── docker-compose.yml
└── frontend
```

#### 最小構成

```
"name": "procject-dev",
  "dockerComposeFile": ["../docker-compose.yml"],
  "service": "react",
  "workspaceFolder": "/home/node/app",
  "forwardPorts": [5173],
  "remoteUser": "node"
}
```

```
// VS Codeの上に表示される名前
// docker-composeファイルパス
// docker-compose内で起動したいサービス
// 最初に開くワークスペース
// サービスが動いているポート
// 実行ユーザー
```

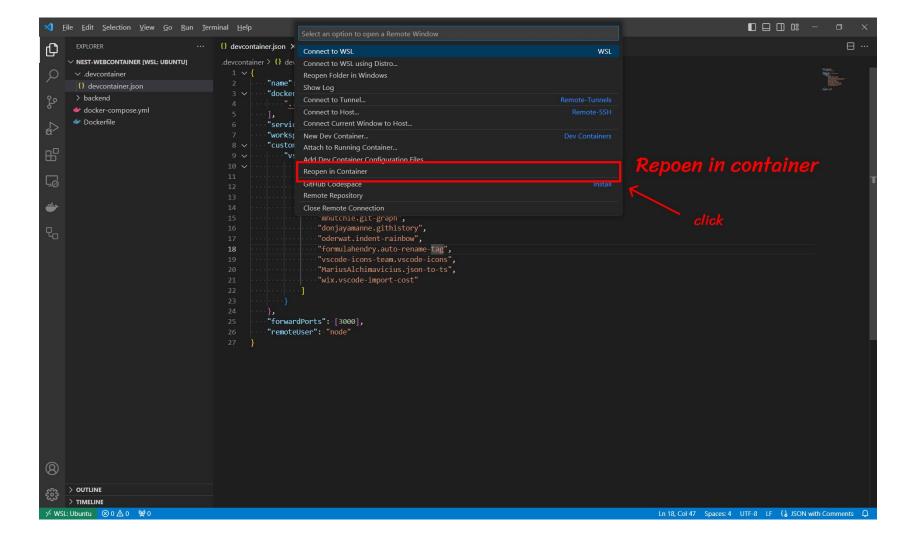
オレオレ設定のための知識

○ VSCodeの拡張機能 起動時にプリインストールする拡張機能

○ VSCodeの設定 起動時にコンテナ内のVS Codeに対して設定 することができる プロジェクトで使用するフォーマッターとか の設定を含めることができる

#### devcontainerの起動方法



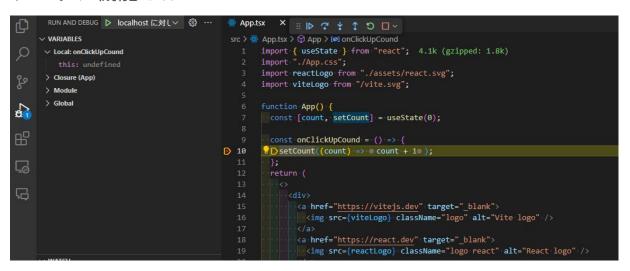


## 全体の流れ

- 1. Reactプロジェクトの作成
- 2. 改善①: Volume Trickを使用してnode\_modulesをコンテナ内に収める
- 3. 改善②:Docker build時のキャッシュを活用
- 4. 一旦起動確認
- 5. devcontainerでコンテナを起動する
- 6. VS Codeでデバッグできる環境を整備する

## デバック機能追加

#### デバック機能とは?



ちょっと止めて確認とか (ブレークポイント)

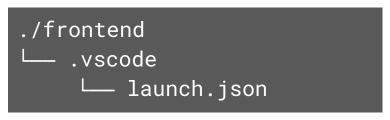
現在の値を確認とか

ステップ実行とか

いろいろできちゃう

## デバック機能追加

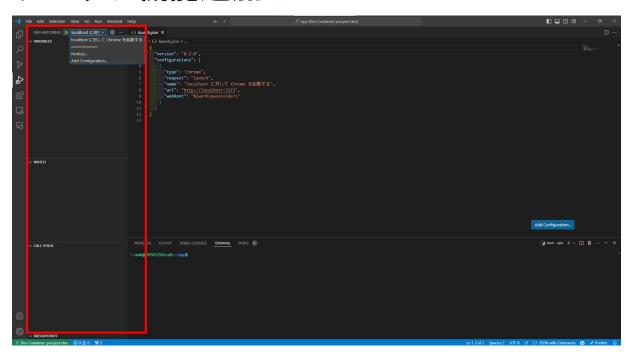
VS Codeで開いた際に、ルートディレクトリにある必要がある



ワークスペースに.vscodeファイルがあれば認識される

launch.jsonを記載することでデバック実行が可能になる

## デバック機能追加



赤枠の表記なら

OK

まとめ

## まとめ

# こちらのリポジトリにまとまってます



これがdevcontianerのいいところ